

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">基礎ゼミⅡ</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">文学部日文2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">横田 隆志</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">『徒然草』を読む</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>『徒然草』は日本の中世文学を代表する作品のひとつです。『徒然草』は、中世という時代の産物である一方、他の文学作品にない独特の魅力をはなっています。この授業では『徒然草』を取り上げて、その世界にふれるとともに、古典文学作品を読むときの基礎的な方法について学んでいきます。</p>		
<p>評価方法</p> <p style="text-align: center;">出席状況（40%）・研究発表（40%）・レポート（20%）</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">徒然草（岩波文庫）</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">吉田兼好作 西尾実他</p> <p>編</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">岩波書店</p>
<p>参考書</p> <p style="text-align: center;">授業のなかで適宜紹介します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>(1) ガイダンスとして『徒然草』の成立や内容について学びます。『徒然草』は中学・高校の古典教材としてすでに取り上げられていると思いますが、本書は約二四〇段で構成されており、その全体像を知る機会には少なかつたのではないかと考えられます。授業では、『徒然草』をめぐる基礎的かつ重要な事項についてまず解説します。</p> <p>(2) 基礎的な知識をつけた上で、一人ひとりが好きな章段を選び、語釈・現代語訳等の作業を行います。その上で、その章段の内容に関わる問題提起をした上で、発表してもらいます。問題提起は、自分で自由に設定してください。選んだ章段からうかがえる兼好の人柄でもいいですし、内容に出てくる人名・地名・書名・和歌などに関わる考証でもかまいません。兼好は歌人でもありましたので、歌語に関わる語彙史的なアプローチでもけっこうです。これらの作業を通じ、『徒然草』の世界にふれるとともに、古典文学作品を読むときの基礎的な方法について学んでいきます。</p> <p>(3) 自分や他の学生の発表を通じて、『徒然草』の内容について得た知見を最後にレポートとして提出してもらいます。</p> <p>第1回 『徒然草』イントロダクション1……吉田兼好という人物と『徒然草』</p> <p>第2回 『徒然草』イントロダクション2……『徒然草』を読む「技術」について</p> <p>第3回 『徒然草』イントロダクション3……『徒然草』の享受史および研究史</p> <p>第4回 学生による『徒然草』発表1</p> <p>第5回 学生による『徒然草』発表2</p> <p>第6回 学生による『徒然草』発表3</p> <p>第7回 学生による『徒然草』発表4</p> <p>第8回 学生による『徒然草』発表5</p> <p>第9回 学生による『徒然草』発表6</p> <p>第10回 学生による『徒然草』発表7</p> <p>第11回 学生による『徒然草』発表8</p> <p>第12回 学生による『徒然草』発表9</p> <p>第13回 学生による『徒然草』発表10</p> <p>第14回 学生による『徒然草』発表11</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※上記の発表スケジュールは受講者数によって若干変更する可能性があります。</p>		